

木祖村議会だより

# 道しるべ



雪原を歩けば、村の息づかいが聞こえる

スノーシュー in こだまの森 (源流のもりクラブ) \*



(写真：湯川 喜義氏)

No. 194

令和8年2月12日(木)

令和7年11月・12月会議  
令和8年1月会議

## CONTENTS

- ▶ P2：令和8年新年のご挨拶
- ▶ P3：令和7年11月・12月会議 議案審議結果  
／令和8年1月会議 議案審議結果
- ▶ P4：令和7年12月会議 常任委員会連合審査  
／令和8年1月会議 常任委員会連合審査
- ▶ P5：令和7年12月会議 全員協議会
- ▶ P6：令和7年12月会議 一般質問  
／議員活動報告1
- ▶ P7：令和7年12月会議 一般質問／  
木曾広域連合議会第4回定例会
- ▶ P8～P10：令和7年12月会議 一般質問
- ▶ P11～12：特集1 令和7年度議会現地踏査  
その後の工事等進捗状況／  
特集2 ふるさとアスリート支援続報
- ▶ P13：議員活動報告2
- ▶ P14：元気発見むらびと大図鑑／編集後記

## 令和8年 新年のご挨拶

# 行政と議会・村の皆様で源流の里を 盛りたてていきましょう!!

木祖村議会議長 栗屋正一

新年あけましておめでとうございます。

令和8年は60年に1回の丙の午年です。年の初めに、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

日頃は木祖村議会に対しまして、温かいご理解とご支援を賜り、議員を代表し厚く御礼を申し上げます。

10月21日には石破内閣が総辞職し歴代初の女性総理として高市早苗氏が就任されました。さっそくガソリン税の暫定税率の廃止が6党間協議のうえ、実施されました。物価高に苦しむ昨今、今後の施策に期待をするところです。

さて、昨年、議員発議により木祖村ふるさとアスリート等応援基金が設立されました。全国規模の大会、国際大会に出場する個人並びに対象者へ宿泊費・交通費等を規定内の額で支援するものですが、これにより村出身者の多くのアスリートが世界に羽ばたいてほしいと思っております。また、過日、権兵衛トンネルの開通20周年式典が盛大に行われ、日義地区の姥神峠の延伸事業も再開され、19号線へ繋ぐ工事が始まりました。この大工事が完成する頃には交通網は格段に整備され、木祖村と周辺地域が短時間で結ばれ、利便性がさらに増します。

一方で木祖村の抱えている課題はたくさんあります。木祖村の人口は12月1日で2,473人となり、その内高齢者は1,109人、高齢化率は44.8%となっており、空き家は増える傾向にあります。人口が減っても村が元気に輝き、次の世代に引き継ぐことが大きな課題です。それにはお年寄りの健康寿命を伸ばし、若者の働く場所があり、子育て世代が安心して子育てができ、喜んで住める安心・安全な村づくりが大事です。

私ども議会は、皆様のお声に耳を傾け、村政にしっかりと届ける努力をしております。ご意見、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。行政と議会、そして村の皆様が一丸となって源流の里をしっかりと盛り立てていきましょう。

今年はコロナとともにインフルエンザが流行しているようです。これから本格的なシーズンを迎え、村民の皆様お1人おひとりが、健康に十分留意をされ、実り多き明るい年になりますよう、心よりご祈念申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。



## 令和7年 11月会議

11月27日(木) 再開  
11月27日(木) 散会

11月会議は11月27日(木)再開され、議案6件(条例改正3件、補正予算3件)について慎重審議し原案通り可決、同日散会した。

人事院勧告に基づく報酬・給与等の一部を改正する条例で議員・特別職・一般職がそれぞれが改正。令和

7年度一般会計補正予算(第4号)指定管理者等は歳入歳出それぞれ32,396千円追加し、総額を3,401,688千円とした。蒲沼橋修繕工事増工分15,500千円や道の駅への円滑化資金貸付5,000千円、昨年同様にリフト村民シーズン券購入補助事業として2,000千円を手当てした。簡易水道事業と下水道事業会計は人事院勧告に伴う人件費の増額分。

### ▶ 議案審議結果 (付託委員会 厚文：厚生文教委員会 産経：産業経済委員会)

- 議案第51号 木祖村議会の議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について …可決
- 議案第52号 木祖村特別職の職員等の給与に関する条例の一部を改正する条例について …可決
- 議案第53号 木祖村一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について …可決
- 議案第54号 令和7年度木祖村一般会計補正予算(第4号) …可決
- 議案第55号 令和7年度木祖村簡易水道事業会計補正予算(第3号) …可決
- 議案第56号 令和7年度木祖村下水道事業会計補正予算(第2号) …可決

## 令和7年 12月会議

12月8日(月) 再開  
12月12日(金) 散会

12月会議は12月8日(月)再開され、議案6件(条例改正1件、建設工事変更請負契約の締結1件、広域連合規約の変更について1件、補正予算3件)発議3件について慎重審議し原案通り可決、12月12日(金)散会した。広域連合規約の変更は、木曾広域連合の構成

団体に長野県を追加するための規約の変更。令和7年度一般会計補正予算は、デマンド交通運行委託料、保育園給食材料高騰、こだまの森巨大迷路チケット売り場改修工事費用等に伴う予算として、歳入歳出それぞれ11,537千円を追加し、総額を3,413,205千円とした。簡易水道事業会計補正予算は奥峰新水源水質調査委託費495千円等。

### ▶ 議案審議結果 (付託委員会 厚文：厚生文教委員会 産経：産業経済委員会)

- 議案第57号 木祖村村長の損害賠償責任の一部を免責する条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例について (厚文) …可決
- 議案第58号 建設工事変更請負契約の締結について (産経) …可決
- 議案第59号 木曾広域連合規約の変更について (厚文) …可決
- 議案第60号 令和7年度木祖村一般会計補正予算(第5号) (厚文・産経) …可決
- 議案第61号 令和7年度木祖村国民健康保険特別会計補正予算(第3号) (厚文) …可決
- 議案第62号 令和7年度木祖村簡易水道事業会計補正予算(第4号) (産経) …可決
- 発議第7号 木祖村議会におけるハラスメントの防止等に関する要綱の制定について (厚文) …可決
- 発議第8号 私立高等学校に対する公費助成に関する意見書の提出について (厚文) …可決
- 発議第9号 診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬10%以上の引上げを求める意見書の提出について (厚文) …可決

● 「木祖村議会におけるハラスメントの防止等に関する要綱の制定」は、木祖村議会におけるハラスメントの防止及びハラスメントに起因する問題が生じた場合の措置に関し必要な事項を定め、もって健全な議会活動を確保することを目的とするもの。〔提案議員：田上芳朗議員〕

#### ● 採択された陳情に対する意見書

- ・ 「私立高等学校に対する公費助成に関する意見書」〔提案議員：大久保庄亮議員〕
- ・ 「診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬10%以上の引上げを求める意見書」〔提案議員：清水えり子議員〕

上記意見書2件は、地方自治法第99条の規定により関係省庁へ提出した。

- 「木祖村連合自治会からの陳情書」については継続審査とした。

## 令和8年 1月会議

1月16日(金) 再開  
1月16日(金) 散会

1月会議は1月16日(金)に再開し、議案3件(損害賠償案件1件、補正予算2件)について慎重審議し原案通り可決、同日散会した。

令和7年度一般会計補正予算(第6号)は歳入歳出はそれぞれ111,274千円を追加し、総額をそれぞれ3,524,479千円とした。

### ▶ 議案審議結果 (付託委員会 厚文：厚生文教委員会 産経：産業経済委員会)

- 議案第1号 損害賠償の額の決定について (厚文) …可決
- 議案第2号 令和7年度木祖村一般会計補正予算(第6号) (厚文・産経) …可決
- 議案第3号 令和7年度簡易水道事業会計補正予算(第5号) (産経) …可決

**厚生文教委員会** 総務課 住民福祉課 教育委員会

議案第57号 木祖村村長等の損害賠償責任の一部を免責する条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例について

質疑なし

議案第59号 木曾広域連合規約の変更について

**問** 県参画後の連携体制について

**答** 広域議会に県で推薦される県議会議員が入ることになっているが、まだ決定していない。

議案第60号 令和7年度木祖村一般会計補正予算(第5号)

**問** 幸せテラスまめのわ周辺緑地整備事業について

**答** 児童公園整備に向け、財源を含め3か年計画で遊具の種類等、整備内容を検討していく。

**問** マイナンバー交付率や保険証の状況について

**答** 交付率は約90%。国保、後期ともに資格確認証の発行を行っており、特に問題は生じていない。

**問** 「こども誰でも通園制度」について

**答** 全国一律で行う事業で保育園に通っていない0歳6か月から3歳未満が対象で、月10時間を限度に利用可能。利用希望者はシステムで予約し面談をしてから利用することになり、現在行っている一時預かりとは違う。

**問** 給食食材の増額補正について

**答** 物価高騰に対応する補正は保育園のみで、現段階では小中学校分の補正の必要はない。

**問** 木曾寮の入所者数について

**答** 木祖村からは現在2名が入所中である。

**問** 成年後見制度\*中核機関費について

**答** 広域連合で行う事務に対する負担金である。

**問** 財政調整基金について

**答** 今回は普通交付税の増額補正に伴い、繰り戻しを行った。今後は普通交付税の再算定及び特別交付税の交付状況等を考慮し、再度繰り戻しを行う予定。

議案第61号 令和7年度木祖村国民健康保険特別会計補正予算(第3号)

**問** 支払準備基金の繰入について

**答** 県からの指導ではなく、定められているルールに沿って運用している。

受付4番陳情 令和7年度木祖村連合自治会陳情書

「継続審査」

**産業経済委員会** 産業振興課 建設水道課

議案第58号 建設工事変更請負契約の締結について

**問** 変更理由について

**答** 当初の見込みよりコンクリート補修が増加したことによる変更である。今後は設計段階のサンプル採取を複数箇所から行うことで、見込み誤りとならないよう改善していく。また、今回の橋の竣工は昭和48年で50年を経過している。今回に限らず、点検と補修工事を行うことで、橋梁の長寿命化を進めていく。

**問** 議会への提案順序について

**答** 11月会議で補正予算を議決いただいており、地元住民のためにも、本格的な冬の時期になる前に工事を終わらせるよう、変更契約について今回提出した。

議案第60号 令和7年度木祖村一般会計補正予算(第5号)

**問** 県単農地防災事業設計委託料について

**答** 場所は吉田神明宮下の水路である。

議案第62号 令和7年度木祖村簡易水道事業会計補正予算(第4号)

質疑なし

受付4番陳情 令和7年度木祖村連合自治会陳情書

「継続審査」

\*中核機関費：社会福祉協議会などが自治体の委託を受けて運営する場合等に発生する人件費、事務費、専門職の配置経費のこと

**厚生文教委員会** 総務課 住民福祉課 教育委員会

議案第1号 損害賠償の額の決定について

**問** 今回の事故に対する対応や今後の対策について

**答** 注意喚起するとともに、今後は車両運転時に他の職員が同乗するよう対策を講じている。また賞罰委員会の規定に沿って指導をしており、議会にも今回説明を行った。

**問** 事故後の対応について

**答** 損害賠償額が決まったため、今回、議会に提出し今後示談となる。

**問** 保険の等級について

**答** 個人加入とは違うので保険料が上がることはない。

**意見** 再発防止に努めてほしい。

議案第2号 令和7年度木祖村一般会計補正予算(第6号)

**問** 商品券配布の経費について

**答** 印刷代や郵送代は交付金の対象となっているが、人件費分は対象外である。

**問** 配布時期について

**答** 配布は2月で使用期限は7月末を予定している。清算が翌年度になるため、繰越明許の設定をした。

**問** 商品券配布事業は事務経費を簡便にし、その分をプレミアム分に上乗せする等の処置ができないか。

**答** 必要最低限の経費を計上している。現金配布の方が経費は少なくなるが、商品券を村内で使用していただくことで、事業者支援もしていきたい。

**問** エアコン設置促進事業について

**答** 補助金額の上限は、県が一般的なエアコンを想定して設定した金額になる。

**要望** エアコン設置に対する補助は今後も進めてほしい。

## 産業経済委員会 産業振興課 建設水道課

議案第2号 令和7年度木祖村一般会計補正予算(第6号)

**要望** 企業努力を含め、企業の活性化に向けた協議を進めてほしい。令和7年度のプレミアム商品券事業の実績を早目に報告してほしい。

## 問 除雪の基準について

**答** 基準は10センチとなるが、降雪の最中に積もる量を予測し事業者が出勤している。エリアで降雪量は違うが、不整合とならないよう事業者と調整していく。

議案第3号 令和7年度木祖村簡易水道事業会計補正予算(第5号)

## 問 水道管修繕の今後の見込について

**答** 今回は年末の水不足への対応作業中に修繕が必要となった。今後は、漏水箇所を特定し順次修繕していく。

12月  
会議

# 木祖村議会全員協議会

令和7年12月12日(金)  
役場2階 大会議室

## 協議事項

### ① 道の駅の経営安定化支援について

指定管理者「株式会社源」の経営安定化支援策として、①冬場の運転資金不足解消のための木祖村の施設の指定管理者及び公益的法人円滑化資金貸付制度による短期給付(公的施設に支援する制度)②物価高騰及び最低賃金改正に伴う指定管理料の増額③産業振興や雇用の確保、観光面で村の「顔」を担う「道の駅」へ経営健全化支援としての出資の支援策を検討していると説明があった。

### ② 松塩筑木曾老人福祉施設組合の報告について

人手不足による利用者の受け入れが困難、度重なる人事院勧告による人件費高騰(公務員)、施設の長寿化計画等による財政赤字により、令和9年度、2施設(四賀福寿荘・なんてんの里)を廃止することが決定した。

当組合施設の意向について民間事業者へのアンケートを実施したところ、一部民間事業者が移管・移譲に関心を示し、前提条件として働く人を含める、施設の長寿化や整備への協議等が課題となっている。また職員アンケートでは今の所に残りたいの意見が多数であった。

令和8年度には財政調整基金が枯渇。令和9年度から構成市町村の負担金を「全施設の入所者割」への変更を各市町村議会へ議案提出予定で、木祖村は負担割合が1.72%(約870万円)→2.97%(約1,490万円)へ負担増となる。また、人件費抑制のため、現給保障と定期昇給を基本として、令和7年度の人事院勧告への対応は給料表は当面現行のままとし、期末勤勉手当0.05月引き上げ・通勤手当増額と決定した。

令和10年度以降も2施設閉鎖だけでは黒字転換できない。今後、構成市町村が特養を運営していく意味をもう一度考え、組合のあるべき姿を探っていきたいとの説明を受け、施設を残すことを前提に話し合いをしていく重要性や民間と組合の質の違い等の意見が出され、組合からは民間に比べ給与が平均100万円程高い点や民間事業者の人事評価制度等職員のモチベーションの維持等、地域のために何ができるかを考えていかなければならないと説明があった。

### ③ 令和8年度当初予算編成方針について 総務課

村長から、「第2次木祖村まち・ひと・しごと創生総合戦略」各事業の検証を踏まえた重点取り組みとし

て、令和8年度は「村民の暮らしを守る」ことを最優先に防災対策や村民の暮らしの維持・向上を図る施策の推進を図り、人口減少・少子高齢化が進む中で、村民福祉を更に向上させるため、子育て支援策や村民の困りごとへの支援に重点を置いていく。集落支援員の任用検討、縁結神社の参道整備と鳥居峠の山道整備、藤屋や米屋、旧機動隊詰所の効果的な活用、ガバメントハンター制度の創設、西山地区の防護柵の設置、中学校通級指導教室の開設、修学旅行の助成費増額、妊産婦支援、老人福祉センターへのエアコン導入、補聴器購入補助、きそバスの利用者支援対策等の方針について説明があった。

### ④ 出産支援について 住民福祉課

木曾病院の分娩休止に伴い、妊婦が木曾郡以外の近隣地域にある分娩取扱医療施設で、安心・安全に分娩ができるように宿泊や交通費の支援を行う。木祖村独自の取り組みとして、村外に住民票を有し本村で里帰り出産する妊婦も対象とする。木曾6町村とホテルルートインと宿泊応援協定を締結し、木曾地域の妊婦の優先宿泊や宿泊代の負担緩和措置を推進する等木祖村の出産支援事業の概要について説明があった。

### ⑤ 上下水道経営戦略の改定について 建設水道課

上下水道事業の現状について、将来的に給水人口の減少と水需要の低下が見込まれることから、料金収入の減少が予想される中で、水道施設の建設から30年以上が経過し、老朽化による漏水対策が急務となっている。今後は給水人口や給水量の減少を見据え、「令和7年度木祖村上下水道経営戦略」を策定。耐震化及び漏水の実態を分析し、有水率の低い菅地区及び小木曾地区は管路の更新、敷原地区は漏水対策を進める方針。また非効率配水系統の見直しを検討。また、人口減少による料金収入の減少等に伴う財源確保のため料金改定を行っていく必要があるとの説明があった。

### ⑥ 木曾川右岸の不動産鑑定結果について 建設水道課

洪水の想定水位や河川整備を行うと想定した場合の河川断面の他、不動産鑑定結果について説明があり、情報共有が図られた。

◆安原千佳世 議員

①地球温暖化対策への取り組みを問う

◆田中 寛幸 議員

①木祖村遊休農地の有効利用と将来展望は

◆大久保庄亮 議員

①木祖村観光発信の文字デザインについて  
②保育園教育の充実強化を  
③海外交流の促進を

◆宮下 孝次 議員

①木曾病院の分娩取り扱い休止に伴う村の妊産婦支援施策を問う

◆深澤 衿子 議員

①来年度に向けた福祉施策を問う

◆清水えり子 議員

①一人ひとりが生きがいをもって暮らせる基盤をつくるため～木祖村の社会教育の支援体制を問う～

◆奥原 當 議員

①医学生誕生の夢を。給付制度を作るう  
②戦争しない村。村是(そんぜ)を作るう



やすはら かよ  
安原千佳世 議員

## 地球温暖化対策への取り組みを問う

### 答 従来通り前向きに取り組んでいきたい

**問** 木祖村は令和2年3月に気候非常事態宣言を出し温暖化対策に取り組んできたところである。森林の適正な管理に努め森林保全活動を下流域に積極的に発信する、資源物の有効活用とリサイクル活動を強化する再生エネルギーの普及拡大を図る等5項目の推進項目を掲げた。今現在の各項目ごとの進捗状況を説明されたい。

**住民福祉課長** 役場の中にゼロカーボン推進研究会を立ち上げて毎年意見交換や小水力発電事業の視察を行ってきている。具体的取り組みとしてはペーパーレス化やゴミの分別、節電エコドライブなど10項目にわたるチェックリストを作成し、全職員の意識高揚に努めている。小水力発電事業については笹川の押出地区に建設することを目指し、県企業局の協力を得て、流量観測や生態系調査を行い、事業の導入に向け進めている。現在は木曾川漁協と協議を進めている。当初の予定より2年程度の遅れで、令和8年に概算設計、

9年に詳細設計、それから本体工事の計画となっている。公共施設のゼロカーボン化の取り組みについては、LED化、太陽光発電の取り組み、まきストーブの導入、木製サッシによる屋内保温機能の向上など取り組んできた。可燃ごみの動向については、令和2年度430t、令和6年度380tと人口減少に伴い減少している。一人一日当りの排出量は県平均が770g、全国平均が851gに対し木祖村は640gと大幅に少ない。

**問** 地域脱炭素推進交付金の活用についてはどう考えているか。また2050年二酸化炭素排出量実質ゼロは現在全国で1188自治体が表明しているが木祖村は表明しないのか。

**村長** 交付金については県下で飯田市、伊那市、箕輪町、生坂村、木曾町にて採択されている。しかし、条件が非常に厳しく大変苦慮していると聞き、難しいと考える。2050年実質ゼロ表明は県下の44自治体で取り組まれている。木祖村としても検討していきたい。

## 活動報告

### 令和8年木祖村消防団出初式が粛々で行われる

令和8年1月10日(土) 木祖村社会体育館

議員が行った活動の報告です

令和8年の消防団出初式式典及び表彰式が午前10時から社会体育館において開催され、副議長・消防委員4名の議員が出席しました。

表彰式では日本消防協会長表彰をはじめ日頃から村民の安心・安全のため尽力いただいている消防団員へ表彰状が授与されました。受賞された団員の皆さま、おめでとうございます。

その後、にぎわい広場笑ん館前を通過する分列行進が行われ、地域住民の皆さんが参観、住民の皆さんの消防団への大きな信頼と期待を感じることができました。





# 木祖村遊休農地の有効利用と将来展望は

## 答 遊休農地を増やさず、少しでも減らすよう新たな担い手の確保など対策に努める

村の農業は担い手不足、高齢化などで遊休農地拡大など多くの課題に直面している。例えば山際で鳥獣被害が多く後継者不足や農地の引き受け手がない、耕作者減少により水路等の管理ができない、資材高騰など問題が山積している。

**問** 村の今後の遊休農地への考え方。

**産業振興課長** 耕作者の減少で遊休農地は増えている。畜産農家の減少で牧草農地の維持も困難になり、国庫補助事業も活用して農地の維持を行っている。新たな担い手の確保など対策に努める。

**問** 農地バンクの可視化と仲介は。

**産業振興課長** 農地バンクの可視化、それから需要と供給のマッチングなど、現在は無いが今後の検討課題としたい。

**問** 小規模農家では機械が壊れたら農業を継続できないが、中古機の貸し出し購入補助金制度はできないか。

**産業振興課長** 農業委員会アンケートの中で把握している範囲で、貸し出しなどの紹介はできる。購入補助については今後の検討課題。

**問** 各地域に農業の相談員制度はできないか。耕作地の周りの遊休農地等の草刈りや手伝いなどの人材確保は？

**産業振興課長** 支援を行う人材や担い手の確保が難しく、通年雇用にならないこともあり困難である。新たに木祖村で希望される方が出てきているので今後しっかり考えていく。

**問** 立派な加工所があるので加工賃を払って個人のものを加工できないか。

**産業振興課長** 今後可能か検討する。

**村長** 遊休農地の可視化や耕作機械のマッチングなど耕作支援などは、ホームページに載せて役場に連絡するなど手をつけていきたい。遊休農地の解消など前向きに取り組みたい。

### 木曾広域連合議会 第4回定例会

### 全員協議会で「木曾病院の小児科体制・木曾地域における出産支援」説明への意見が出される

〈派遣議員：清水・宮下〉令和7年11月28日(金) 木曾文化公園

議案の内容は条例改正3件、予算関係3件の全6件について原案のとおり全て可決された。

議案第25号は令和7年8月7日付の人事院勧告に基づき、一般職等の給料及び賞与の支給月数等を改正するもの。

議案第27号の主な内容は、林野火災予防に関する事項について（岩手県の林野火災発生後に国が改定）火災警報等の発令時の措置として市町村へ通報を行うもの。野焼きを行う場合は、計画的かつ消防への届出を行う必要があるが、ゴミの焼却は法律で原則禁止されている。

議案第28号は歳入歳出ともに主に人事院勧告に伴う人件費の補正。ガソリン税の引き下げに伴う補正への影響額の質問について、年度末の状況を見て2月に補正を行い、来年度当初予算においては減額

を行うとの説明があった。

終了後の全員協議会において、①県の木曾広域連合への参画について②火災予防条例の一部改正に伴う林野火災警報等の取扱いについて③木曾病院の小児科体制について説明があった。

木曾病院の小児科体制について、議員から休日の入院体制への親の不安軽減のため、オンコール（電話対応）だけでなくDX活用の意見があり、動画システム化を進める方向で、休日夜間の小児科の判断は伊那中央病院の小児科医が判断、患者の状況によって対応するとの説明があった。また、11月10日(月)の住民説明会後、住民の要望を受けて、健診時妊娠32週以降のタクシー（最大7回）も対象とし、宿泊施設としてウィークリーマンションを対象とするとの説明があった。

- 議案第25号 令和7年人事院勧告に伴う関係条例の整備に関する条例について …可決
- 議案第26号 木曾広域連合副管理者の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について …可決
- 議案第27号 木曾広域連合火災予防条例の一部を改正する条例について …可決
- 議案第28号 木曾広域連合一般会計補正予算（第3号） …可決
- 議案第29号 木曾広域連合介護保険特別会計補正予算（第3号） …可決
- 議案第30号 木曾広域連合下水道事業会計補正予算（第1号） …可決



おおくぼしりすけ  
大久保庄亮 議員

## 木祖村観光発信の文字デザインについて

### 答 郡全体の統一へ村も歩調を合わせていく

**問** 1970年から80年に日本の多くの企業は創業者の生涯や社史を調べ、会社が今後目指す方向のデザインを研究してきた。そして会社独自のマーク、色彩、キャッチコピー、映像で表した。その文字一つ一つに魂がこもっている。木祖村から発信する広報や観光広報の文字デザインもそのような取り組みが必要と思うがいかがか。

**村長** 木祖村全体を統一デザインにするという考えは同じ思いである。一方で国道や村内の公共サインは広域連合で町村がこのデザインにしていこうというように木曾郡統一のデザインサインにした経過がある。郡全体で統一をしていこうと木祖村も当然歩調を合わせていきたいと思っている。

**提案** 木祖村道の駅の看板設置、これから完成するトンネルを含めた6ヶ所の出入り口上部に看板を取り付けていただきたい。

### 保育園教育の充実強化を

**問** 昨今のニュースで活躍している人は小さな頃からゴルフや野球、サッカー等のスポーツ、本や自然に関心を持って大成している人もいる。3歳～6歳までの教育が大切である。今の保育園教育カリキュラムは、親の代わりに子守をする教育体制と思う。もっと文部科学省の子どもの能力を引き出す内容に軸足を移したら良いと考えるが村の考えはどうか。

**教育長** 村の保育園は保護者に代わって子どもの健やかな成長を支える福祉的な機能を基本とし、生活や遊びを通じて豊かな体験を積み重ね、心身の発達を促し社会性を身につける場としていることが大原則。時代の変化に伴って保育園に幼稚園のような教育的役割を求める声が高まっていることも承知している。保育園では子どもの発達状況をしっかり捉えながら、その子どもにふさわ

しい体験活動保育を展開している。英語と触れ合う体験を重視するなど教育も進めていくこととしている。

**提案** 子どもたちの個性を伸ばしていくことが非常に大切なことだ。自然体験学習など取り入れていただきたい。

### 海外交流の促進を

**問** 来年はヨーロッパで冬のオリンピックがある。長野オリンピックの時に1校1国運動があった。世界から参加した国が長野市周辺の小・中学校と友好関係を結んだ。今でもその国から来る人や大使館の人たちが交流している。こういう海外交流は非常に大事なことである。松本市の野球チームの子どもたちがドミニカ共和国へ遠征し交流試合をやることも伝えられている。今、子どもたちの目標は、大谷翔平選手の影響もあって、日本一から世界一に変わっている。本村でも国際交流を大いに進めてほしいと思うが村長の考えを伺う。

**村長** 子どもたちが早くから世界を知って、見聞を広めたり、大きな夢を抱くということは素晴らしいことだと考えている。県内の自治体でも、子どもたちを国内外に短期留学させる事業を実施しているところがある。仲介してくれる方が母国に太いパイプを持っている縁で話が進んだと考えられる。現状、本村にはそういった繋がりが見当たらない状況にあり、こういった海外交流を進めていくということが現状では難しいと考えているが、条件が整えば検討をしていきたい。

**提案** 学生時代に多くの留学生と交流し、外国の方と親しくなり老人福祉センターの結婚式にも来ていただいた。会話を通じ子どもの頃から分からなかった小木曾地区の言葉の意味が分かるようになった。ほんの小さなことでも経験となる。積極的な海外交流を考えていただきたい。



みやしたたくし  
宮下孝次 議員

## 木曾病院の分娩取り扱い休止に伴う村の妊産婦支援施策を問う

### 答 提案された村独自の出産費用無償化は、現段階で行わず国の動きを見ていきたい

木曾病院の分娩取り扱い休止に伴い、県の「木曾地域妊産婦支援パッケージ」により具体的な支援が明らかになった。経済的な負担軽減の一方で、木曾地域の医療縮小への懸念の払拭と郡外出産のため妊産婦・家族の不安や心理的負担軽減への対策が求められる。

**問** 今回の宿泊支援はあくまで応急策。周産期医療の課題は未解決である。小児科の夜間休日外来診療の縮

小もあり木曾地域の医療縮小化が懸念される。地域医療の確保、医療人材確保に対する村の考え方について。

**住民福祉課長** 木曾病院は地域唯一の分娩医療機関。これまで通り分娩ができることが理想。引き続き分娩再開に向け関係機関に働きかけをしていきたい。

**問** パッケージの支援施策は6町村横並びが原則と思われるが、村独自の追加・拡充施策は可能か？

**住民福祉課長** 木祖村独自の取り組みは、村に住民票がなく里帰り出産をする場合も同様な支援をする。32週目以降の健診時のタクシー利用は6町村の検討課題であるが、村では妊産婦の意見を聞き、必要により村独自の制度の整備を検討していきたい。

**問** パッケージの健診費用等算出の根拠について。

**住民福祉課長** 移動支援は国基準の60分以上を30分にした。宿泊費は各市町村の旅費規程を基準とした。

**問** 郡外出産は破水や早産・緊急対応等妊産婦・家族の不安が大きい。解消に向けた村のケア・対策が重要である。夫婦参加の出産準備勉強会を行い、支援パッケージの勉強、産後クライシス・うつ等を防ぐなど包括的な支援を村の取り組みとして実施してはどうか？

**住民福祉課長** 緊急時の対応は、広域消防本部、タクシー会社へ協力依頼をしている。出産勉強会は分娩医

療機関が指導しており、ガイドブックに遠方出産の支援策の追加を考えている。妊娠8ヶ月時に保健師面談で出産に備え指導を行う等、十分なサポートをしていく。

**問** 国は出産費用無償化を計画しているが、先駆けて村の独自施策として出産育児一時金を超える自己負担分を全額無償化し、妊産婦・家族の安心を確保するとともに若年層の移住・定住化につなげてはどうか。

**住民福祉課長** 国は無償化に向け議論をしており、実施は2027年度以降の予定。法案が成立すれば個人負担が出るのは僅かな期間であるため、現段階では村の補助は行わず国の動きを見ていきたいと考えている。

**意見** 国の動きを見るのではなく、村として無償化をはじめとする妊産婦支援・出産費用支援を国に先駆けてやってもらいたい。木曾病院の縮小の話もある中で、住民の安心・安全に繋がるのではないか。



ふかざわえりこ  
深澤 衿子 議員

## 来年度に向けた福祉施策を問う

**答** ファミリーサポートは準備期間と調整が必要であるが、早期に設置可能か検討する

**問** 妊産婦やその家族で不安がある方のために来年度からファミリーサポートの設置をすることはできないか？

**住民福祉課長** 出産前後の不安への対応は保健師中心に手厚いサポート体制をとっている。木曾病院の分娩取り扱い休止も踏まえ、今まで以上に寄り添った対応を考えている。ファミリーサポートは核家族化が進み村の事業の需要は出てくる。子育て中の人にはこれがあると安心できるとの声も聞く。健康作り計画の中に病児病後児、乳幼児期の支援充実を掲げている。他人に預けるリスクや依頼者と提供者をマッチングさせる窓口、職員の配置等検討課題も多い。準備期間と調整が必要。早期に設置が可能か含めて検討する。

**意見** ファミリーサポートの体制が理解され、村の子育てが大丈夫になるよう来年度予算に入れてほしい。

**問** 乳幼児期の病児病後児保育のサポートを何度も提案してきた。働く親が子どもを安心して預けられる保育園、施設は必要と言いつつも取り組んでいないが。

**教育長** 子育て支援充実を図り安心して子育てができる環境作りのために病児保育は重要な課題。特に乳幼児期の急な発熱や体調不良等で保育園の受け入れが困難な場合がある。その場合、保護者の就労継続に影響が大きく体制整備は喫緊の課題である。村単独、郡内共同の整備を模索してきたが、施設改修等の費用負担、看護師・保育士確保や人的配置に課題がある。松本市、塩尻市、山形村、朝日村が共同実施している病児保育事業のネットワークに入れてもらうよう協議しているが、松本医療センターへ木曾から片道約1時間。利便性が高くはないが困った時のセーフティネットとして大変意義はある。

今後は伊那地域などの運用されているネットワークとの共同実施を継続して協議していく。

**意見** 村が親の負担を軽減するサポートを行うことが一番。何とかできる方策はないか再度の検討を願う。

**問** 前回、児童クラブのあり方を学校側と話し合い、検討していくと答弁されたがその後はどうか？

**教育長** 長期休業の児童クラブ運営の課題は3点を主に進めてきた。現状のスペースから離れるが、学校側に施設の提供ができるよう相談している。夏の暑さ対策は、体育館は大型扇風機で対応する。3つ目の教室再配置は学校側の事情もあり慎重な検討が必要。

**問** 保護者と話し合った中で高学年を何とかしていただけないと言われるが方向性はどうか？

**教育長** 児童クラブは低学年を中心に受け入れるシステムだが、高学年も必要な人は預けられるように受け入れについては保護者と懇談する。

**問** 10月から始まったきそバスの運行状況は？補助員をつけてはどうか？

**総務課長** 乗客数では数原線のみで10月が921名。11月は19日までに557名が利用。1日平均30名の乗車があり順調と考える。協議会には木曾病院の介助や案内をする添乗員の配置を要望している。支援が必要な人がわかってきたので、他の方法も含め来年度予算計上にあたり検討中である。

**意見** 郡の身体障害者協会できそバスの研修会があり心配なことを振興局と話し合った。1人でも多くの方が利用できるバスになるようお願いしたい。社協の移動・移送支援は今後民間に事業を委託できないか検討を提案したい。奈良井までのバス延長を村長と塩尻市長で早く検討するようお願いしたい。



しみず あり子 議員

## 一人ひとりが生きがいをもって暮らせる基盤をつくるため～木祖村の社会教育の支援体制を問う～

### 答 新たな名簿を作成し、生涯学習支援登録制度を進めていく

**問** 人材は村の宝である。村の生涯学習等の講座の開設及び講師の選定方法の現状を問う。

**教育次長補佐** 毎年、公民館運営審議委員や社会教育委員の意見を聞き社会教育計画を策定後、公民館事業や社会教育事業を推進。令和7年度公民館学級講座17講座全42回、すくすくクラブ全25回、分館活動は各地区の伝統・文化やコミュニティ形成活動を実施。講師は知識を持った人を住民の紹介や郡内周辺市町村の社会教育担当から情報を得て選定している。

**問** 各社会サークル活動や講座に携わる人材の掘り起こしと育成の具体的な推進状況を問う。

**教育次長補佐** 公民館活動の参加者減少の中、健康麻雀講座、防災デイキャンプ等新規講座の増加に繋げている。

**教育長** 埋もれた人財の発掘の仕組み化を進めていく。

**教育次長補佐** 平成12年度本人及び自治会から推薦された講師や指導者を「社会教育バンク」で名簿化し村から講師の紹介を図ってきたが、今後、新たな名簿を作成し、生涯学習支援登録制度を進めていく。

**問** 村の公共施設の利用促進を図るための具体的な状況、システム及び施策を問う。

**総務課長** 施設予約は役場内のグループウェアで管理。フィットネスルームは予約システムで住民がオンライン予約可能。予約システムは利便性やシステム導入による費用対効果など総合的な検討が必要であるが、利用可能施設の一覧を作成、周知を検討していく。

**要望** 木祖村第5次総合計画の施策の進捗状況をもう一度検討し、村民一人ひとりが生きがいを持って暮らしていくための基盤づくりを要望する。



おくはら あつ彦 議員

## 医学生誕生の夢を。給付制度を作ろう

### 答 現状では制度を作る予定はない

**問** 近年この村からも一般家庭から医師になった若者が6名も出現している。全国的に医師の偏在が叫ばれている中、村内一般家庭から子どもの夢、親の夢に希望を持たせることにより、学習意欲・教育意欲を引き出すことにもつながる。親子に夢を与え希望を持たせる施策の提案として、村の基金を使い1,000万円単位の給付制度を作ったらどうか。先進国38カ国の千人当たりの医師数は3.7人。突出した国は6人を超えている。日本は2.6人。2/3の水準である。資金もあり、それを運用し活用すればできるはずである。5年、10年後まで展望すると、行政側の熱意が今こそ求められている。この村では「へこたれないぞ」という意思表示をすることにより、村民に勇気や希望を与える。

**村長** 医師になるためには資金が必要であることは事実である。将来、木祖村あるいは木曾郡で医療に関わるのであれば全く否定するものではないが、都市部で勤めるとなると、そういう制度にはならない。地域に帰って来ない方に多額のお金を出すのはどうか、全体を見て判断しなければならない。

**問** 村には活用できる基金が17億8千万円余ある。これを活用してはどうか。必ずしも応募があるとは限らないが、励みや全国的な話題性がある。

**村長** 基金は将来的な需要などのために備えている。提案については現状作る予定はない。

### 戦争しない村。村是(そんぜ)を作ろう

**問** 戦後80年、世界では悲惨な戦争が続いている。争いによって生み出されるものはない。木祖村の未来を含めた教育や認識を新たにしないといけないのではないか。戦争や平和について合意形成を村是として位置付けてはどうか。戦争をすると損をするという国ばかりだったら誰も戦争はしない。先進国が武器を輸出し利益を得ている。戦争に駆り出されるのは末端の国民である。平和について村是として意思を示すべき。戦争は「しない」「させない」そして何よりも母親には「行かせない」というのがある。しかし平和のことを言うと、すぐに偏っていると見られる。

**副村長** 世界各地で戦争、紛争が継続中であり、破壊と悲劇が起きている。村は今年度戦後80年記念式典を開催し、平和への願いを確認したところである。

**問** 道理にかなって正しいことを良いと認め、それを村の大きな礎(いしずえ)にしていったらどうか。平和は喫緊の課題だ。

**村長** 戦争をしない、させない、戦場へ行かせないという思いは、きちんと村の中に流れていると思う。村が平和を希求することになんら変わりはない。

**問** 今の時点では村長は抵抗があるかもしれないが、提案したのは日本でも数年のうちにこういう問題が出て来ると思う。先取りした政策を望みたい。

**村長** 世界は平和を求めていくべきだということは全くその通りだ。意見交換を通じ、またご示唆をいただければと思う。

村関係工事（議会だよりNo.192令和7年8月12日発行にて既報）

# 令和7年度議会現地踏査 その後の工事等進捗状況

## ■ こだまの森巨大迷路改修工事 完成



近隣地域に同様な施設がなく、人気も高いことからリニューアルが待たれていたが無事竣工、営業が再開された。今後の来客が期待される。

## ■ 村道味噌川線改良工事 完成



かつての林鉄の軌道敷の上に舗装をしたため段差があったり、荒れた路面だったが、今回の工事ではセンターライン上に継ぎ目がない工法で完成。

## ■ 国設第一ゲレンデスノーマシン整備工事（スキー場） 完成



約1億円をかけ2025～2026シーズンに間に合うよう施工完了。年末年始（12/27～1/4）の入込客は前年並みの14,056人を確保した。

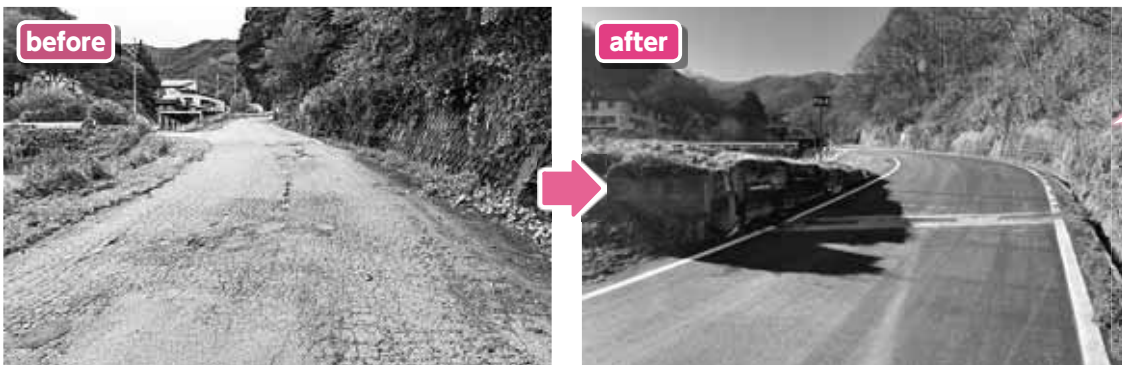
## ■ 崩沢水路整備工事（小木曾崩沢） 継続中



工事中  
令和7年度工事

沢上部の  
工事箇所

## ■ 村道岩岳改良工事（スキー場） 完成



スキー客から改善要望が寄せられていたが、シーズン前に工事完了。スムーズな往来が可能になった。

■ 吉田地区送配水管布設替え工事（吉田） 継続中



工事中 令和7年度工事

水道管が国道19号の地下を横切るため特殊な配水管と特殊な工法で工事施工中。  
吉田地区の円滑な給水に大きな期待がかかる。



国道19号の地下を跨いだ  
西側の工事の状況



特集2

「ふるさとアスリート支援」 続報

源流のもりクラブ臨時総会で応援基金設立決定

令和7年11月14日(金) / 役場2階 大会議室



木祖村出身のアスリート等の活躍は、メディアや学校等でも注目を集めており、地域の活性化にも大きな影響を与えているが、国際大会や全国大会への参加には、移動費・宿泊費をはじめ、用具やトレーニング環境に多額の費用を要する現状である。資金援助をはじめ応援ネットワークの拡大、交流促進、地域スポーツ文化の醸成を目的に「木祖村ふるさとアスリート等応援基金」の設立が臨時総会で決定した。

基金は、宿泊費・交通費について国際大会8割、国内大会5割の支援を行う。選手に帯同する村内コーチへの支援拡充の声も上がり、柔軟に対応するように意見が出された。今後は審査委員会の設置や事務局体制の強化が図られる予定。

議会としても懇談・企画・提案を通して、応援基金の設立までこぎつくことができ、議員活動の大切さをあらためて認識するとともに、この基金が夢を持つ子どもたちをふるさとで支えることで村全体の活性化が図られることを願っている。

議会では、松塩筑木曾老人福祉施設組合の運営のあり方の議論の中で、足元の木曾地域の高齢者施設の現状を把握し理解を深めることが大切との思いから、郡内の代表的な高齢者施設の視察を実施しました。

議員が行った活動の報告です

## 議会自主企画 郡内高齢者施設視察



机上で説明を受ける議員

### 特別養護老人ホーム グレイスフル上松（上松町）

少子高齢化のトータルサポートを理念としている（社）サン・ビジョンが運営する民間施設で、グレイスフル上松は10人を1つにしたユニット型で長期30名、短期10名の入所が可能。郡内には同様な施設が木曾町にもある。塩尻市の高齢者住宅や認定こども園等、多世代交流型複合施設の説明を受け、施設内の見学をした。



入浴施設

### 田中議員の感想コメント

要介護度3～5の認定を受けた方が基本であり、日常生活の世話、機能訓練、健康管理、栄養上の介護をしている施設である。全室個室であるが家族的な雰囲気の利用者同士のコミュニケーションもしっかりとれていると感じた。実際に入居者と話ができただが、行き届いた管理ができていると感じた。

### 養護老人ホーム 木曾寮（上松町）

木曾広域連合を指定管理者として（社）木曾社会福祉事業協会が運営。定員55名中51名が入所中。チルド保存と再加熱カートを利用する新調理方法「ニュークックチル」を採用。  
\*措置費施設であるが、訪問介護・居宅介護事業を併用実施しているとの説明を受け、食事の配膳の様子等を見学した。

\*措置費施設：行政が「やむを得ない理由」により自宅での生活が困難と判断した人に対し、入所やサービス利用の措置（行政処分）をとる施設のこと



説明を受ける議員

### 深澤議員の感想コメント

コロナ禍が過ぎて、ようやく念願の郡内の高齢者施設を見学できた。公と民の施設感覚とサービスのあり方や職員の対応を改めて知ることができ良かった。今後の介護保険サービスの充実を願いつつ更なる研修を重ねていきたい。



施設見学をする議員

### 特別養護老人ホーム サニーヒルきそ（木祖村）

14市町村が共同運営する松塩筑木曾老人福祉施設組合が管理をしている。居室や施設内の状況を見学後、事務局長から今後の組合のあり方について説明を受け、質疑等により今後のサービスや負担金の現状等について理解を深めることができた。

### 安原議員の感想コメント

サニーヒルは私の母がお世話になった、大変思い入れのある施設です。久方ぶりに訪問しました。デイサービスは中止しており、長期入居者が54名で内、木祖村の方が19名。何としてもこの施設は残したいとの思いを強くしました。

# 元気発見 くらびと大図鑑

木祖中学校陸上部コーチ  
公民館運営審議会委員  
社会教育委員  
スポーツ推進委員

はら ちえ さん  
原 智恵 さん

原智恵さんは、平成28年6月から木祖村スポーツ推進委員として活動しながら、保育園児への運動教室や小中学生の陸上を指導しています。厳しい研修と審査を経て取得する日本陸上競技連盟公認指導者資格を有し、源流トラッククラブ（陸上競技）では、全国大会や東海大会に出場する選手を育て、卓越した技術指導を発揮し活躍されています。また、木祖村総合型スポーツクラブの教室では、ストレッチリングを使って筋肉をほぐす「ボディコンディショニング教室」の講師を務め、大人の方々を対象とした指導も担当しています。今回、スポーツを通じての思いについて語っていただきました。

## 体を動かすことが好き！そんなきっかけづくりの場を

中学・高校・大学を通して陸上競技に取り組み、運動会のリレー選手に選ばれ、県大会、東海大会に出場したことが競技人生のスタートでした。器械体操やミニバスなどさまざまなスポーツにも親しんできました。大学卒業後は幼稚園の運動指導をきっかけに、競技指導者へと視点が広がりました。結婚を機に木祖村へ移住し、現在は未満児から中学生までを対象に運動あそびや陸上指導に携わっています。子どもたちが「できなかったことができるようになる瞬間」、結果や記録が伸びた喜び、仲間と楽しそうに体を動かす姿、そして笑顔。その一つひとつが、私の活動の原動力です。競技経験と20年にわたりこれまで出会った多くの子どもたちからの学びを糧に、日々指導に取り組んでいます。



私にとってスポーツは“出会い”です。仲間、コーチ、監督、そして環境との出会いが人生を豊かにしてくれます。きっかけはどこにあるかわかりません。まずは遊びの中で楽しさを感じ、様々なスポーツに触れ、必要な時には専門性と向き合うこと。その一つひとつの瞬間に寄り添いながら、これからも子どもたちと一緒にスポーツの魅力を広げていきたいと考えています。

## 自己紹介 ①年齢 ②出身地 ③抱負・自己PR

原 智恵 さん ①俗にいうY世代。②諏訪出身。③木祖村での運動、陸上指導をはじめ、県内の保育園、センター、クラブチームで運動、陸上指導を行っています。県の普及部でコーチを務め、陸上競技の普及活動もしています。まめのわではボディコンディショニング教室も開催中。私自身の新たなスポーツとの出会いも、木祖村がきっかけです。子どもが習い始めたことを機にフットサル（サッカー）を始め、そこで素敵な仲間と出会いました。その出会いがあったからこそ、今も楽しく続けられているママさんフットサル（サッカー）です。



## 編集後記

ご存じの方もいるかと思いますが、昨年11月27日（休）に模擬子ども議会が行われました。木祖中学校3年生6人が議員となって議会で一般質問を行い、村が抱える様々な課題を質問する様子を“大人”議員はふだん座ることのない傍聴席から俯瞰するように見ていました。その模様が木曾広域ケーブルで放送されましたが、皆さんはご覧になりましたか？自分のお子さんだけ見られた親御さんも多かったと思いますが、いかがでしたでしょうか？

私たち議員は、中学生の質問にうなずいたり、共感したり、議員としての初心に戻される思いでした。純粋に木祖村の将来を心配する質問や生活する中で改善をしてほしい質問など、村長もタジタジとなる一面もあり、大変有意義で“本格的”な模擬子ども議会でした。

議員のなり手不足、投票率の低下等、議会を取り巻く環境には厳しいものがあります。子ども議員の皆さんが選挙権を得るまで3年ほど。今回の議会で得られた経験を果実として結実できるのも、もうすぐです。少子高齢化をはじめ木祖村の厳しい現実を何とかするために、子ども議員の皆さんが具体的な行動に移せるのも間近です。模擬子ども議会は、持続可能な村づくりに向け大きな期待感に包まれた貴重な時間でした。（宮下）

木祖村議会報編集委員会 委員長 宮下孝次 委員 安原千佳世 清水えり子